

宮城県初 CLT建築を宮城県産材で建設
仙台物流センター事務所棟の新築工事を着工
～ **日本初** CLTと鉄筋コンクリート造の平面混構造 ～

◆ ニュースポイント ◆

ナイス株式会社（社長：平田 恒一郎、本社：神奈川県横浜市）は、仙台物流センター（宮城県多賀城市）の事務所棟が東日本大震災での6メートル超の津波により壊滅的な被害を受け、震災直後より仮設事務所にて業務を行ってまいりましたが、本日、事務所棟の新築工事を着工する運びとなりました。

新築工事の計画に当たっては、宮城県の木材産業の振興に寄与し、復興のシンボルとなるよう宮城県初となるCLT（直交集成板）を採用しました。CLTには全て宮城県産のスギ材を用いています。

同計画はCLTと鉄筋コンクリート（RC）造とのハイブリッド構造とし、コア部分となる階段室をRC造に、壁や床、天井にCLTを採用しました。平面上での混構造は日本初となります。大規模建築物の木造化に向けて、今後は防火区画設置の必要性からCLTと異素材との組み合わせ技術が求められる中、弊社は同工事を通じてCLTとRCとの組み合わせ技術を検証し、CLTの普及に貢献します。

更に、CLTの断面を内装に生かし、木質感あふれる空間を演出した計画としています。そのため、木質系断熱材による外断熱工法とし、接合部には引きボルトを使わずに外部の側面からプレートで固定する工法を新たに考案し採用しています。

弊社では今後、CLT建築の普及推進に向け、現場見学会などを通じて同計画に関わる施工状況などを発表していく予定です。

ナイス(株)仙台物流センター事務所棟新築工事 概要

所在地	宮城県多賀城市宮内 1-10-1
着工日	2016年7月21日
竣工予定	2017年3月
設計・施工	ナイス(株)建設事業本部
構造設計	木構造建築センター(株)
構造	木造(CLT)+鉄筋コンクリート造 2階建て
建築面積	187.65㎡
延べ床面積	356.70㎡
CLT使用材積	146.82㎡（全て宮城県産スギ材）

<外観イメージ>



※ 同計画は林野庁による「CLT等新たな製品・技術活用建築物実証事業」及び宮城県による「森林整備加速化・森林再生事業」の採択事業となっております。

この件に関するお問い合わせ先

ナイス株式会社 広報室 宮川・梅原 TEL：(045) 501-5048
〒230-8571 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1 ナイスビル 8F

<内観イメージ>



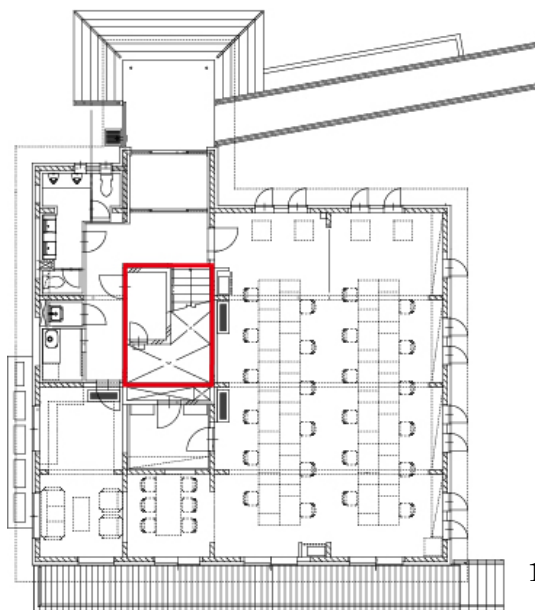
CLTを内装材として使用。接合金物がほとんど見えない工法のためすっきりとした空間を実現

<接合イメージ>

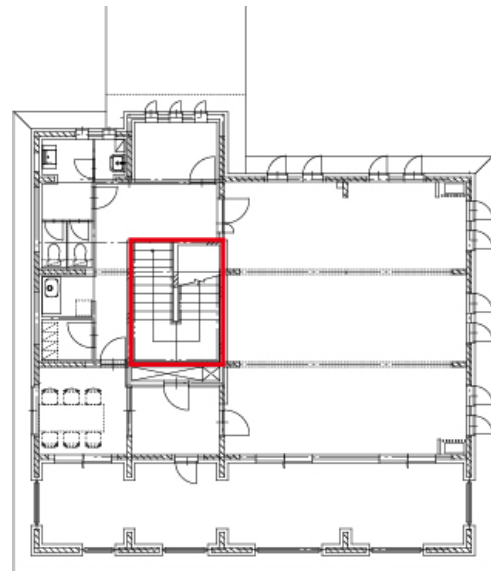


上層と下層のCLTを外側からプレートにて接合

<平面図>



1階



2階

階段室（赤線で囲んだ部分）をRC造で防火区画とし、その他をCLTによる木造とした平面混構造で建設

<参考> CLT (Cross Laminated Timber、JAS名称：直交集成板)

CLTとは、挽き板を並べた層を板の方向が直交するように重ねて接着した大判パネルを言います。1995年頃からオーストリアを中心に発展してきた新しい木質構造用材料で、世界各国で様々な建築物に利用されています。

日本では現在、木材需要の拡大により林業の成長産業化を図るべく、これまで木材があまり利用されてこなかった中大規模建築物の木造化を可能とするCLTの普及促進に向けて、林野庁や国土交通省を中心に施策が講じられています。

CLTは寸法安定性が高く、厚みがあることから断熱性、遮音性、耐火性に優れています。また、施工性の良さやRC造などと比較した際の軽量性なども挙げられます。



画像：(一社)日本CLT協会HPより

《ナイス(株)仙台物流センター 概要》

東北地方における大型物流センターとして2008年より業務を実施しております。敷地内にはナイスプレカット(株)仙台工場を併設しており、躯体や建材、住宅設備機器などの総合物流機能を備えています。

同センターは、仙台港に隣接する工業団地の「仙台港背後地」に位置し、東北自動車道と仙台南部・東部・北部道路などを結ぶ環状道路を有効に活用でき、道路事情に恵まれた好立地となっております。また、港湾部の立地メリットを生かし、住宅1棟に必要な建築用資材をアッセンブルして各地に供給しております。

2011年3月の東日本大震災では、6メートルを超える大津波が押し寄せ、壊滅的な被害を受けました。一次操業停止を余儀なくされましたが、同年5月より、被災地の生活再建に向けた応急仮設住宅の建築用資材の物流拠点として業務の一部を再開いたしました。

所在地	宮城県多賀城市宮内 1-10-1
敷地面積	約 33,090 m ² (約 10,000 坪)
倉庫面積	約 9,150 m ² (約 2,760 坪)
業務開始	2008年 10月



東日本大震災直後の仙台物流センター

ナイスグループの東北地方における取り組み

ナイスグループは、1986年に宮城県にて木材市場を開業以降、東北各県に拠点を設け、東北地方の家づくりに携わってまいりました。

東日本大震災では、震災直後から1,088戸の応急仮設住宅の建設に携わり、その後も災害公営住宅や復興応援型住宅「フェニーチェホーム」の供給など、復興に向けて全社一丸となって取り組んでおります。

2014年7月には宮城県南三陸町の特別養護老人ホーム「慈恵園」の建設に携わり、日本最大規模となる約3,000 m²の木造建築物を供給いたしました。

また、今年7月には同じく南三陸町において、建築家の隈研吾氏が設計を手掛ける「南三陸町志津川地区観光交流拠点新築工事」の施工を地元建設会社様との共同企業体で受注し、同月6日に着工いたしました。2017年1月末に竣工を予定しております。



1,088戸の応急仮設住宅の建設に携わった
(写真：宮城県東松島市)



南三陸町志津川地区観光交流拠点完成イメージ
(画像提供：隈研吾建築都市設計事務所)